

Ⅱ 社会科の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

「内容」ごとに1～8までの大問を示した。「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」「資料活用の技能・表現」「社会的事象についての知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の分析と指導のポイント」について

調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題（過去4年間の継続課題）」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。また、文末の「p. ○参照」は、次の「領域別調査結果の考察と指導のポイント」3の内容との関連箇所を示している。

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。

（※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

大問・領域	小問	設問のねらい	観点別評価			
			関 意 態	思 判	技 表	知 理
世界の 地域構成 ①	(1)	赤道・本初子午線・日付変更線の内容を理解している。				○
	(2)	地図の特色を理解し、用途に応じて適切に活用することができる。			○	
	(3)	時差についての知識を身に付け、それを活用して日本との時差を求めることができる。			○	○
	(4)	地図の正しい位置にアフリカ大陸のおおよその形を描くことができる。			○	
日本の 地域構成 ②	(1)	日本の領域について、地図の緯度・経度を読み取ることができる。			○	○
	(2)	経済水域についての内容及び名称を理解している。				○
	(3)	都道府県の位置や名称を基に、地図資料を正しく読み取ることができる。			○	
	(4)	文章や地図資料から、それが示す都道府県名を指摘することができる。				○
身近な 地域 ③	(1)	身近な地域を調べるのにふさわしい地形図の縮尺を理解している。				○
	(2)	テーマにそった適切な調査方法を考察し、適切に選択することができる。		○		
	(3)①	地理的事象を追求するための現地調査の手順を理解している。				○
	(3)②	聞き取り調査の際に、地理的事象を追求するための適切な質問をすることができる。	○		○	
都道府県 の調査 ④	(1)	資料を基に、全国と比較した富山県の河川の特色を考察することができる。		○	○	
	(2)	富山県内の4つの市の産業に関する資料を正しく読み取ることができる。			○	
	(3)	富山県内の4つの市の人口や面積に関する資料を正しく読み取ることができる。			○	
	(4)	富山県内の4つの市の位置を、資料から得られる情報をもとに判断することができる。		○		
歴史の流 れ ⑤	(1)①	「古代」「中世」「近世」「近代」などの時代区分の方法と関連する時代名を理解している。				○
	(1)②	西暦年を100年単位で年代を区切る世紀の表し方について理解している。				○
	(2)	平安時代、室町時代、明治時代の文化の特色について、建築物から理解している。				○
	(3)	歴史的人物について興味・関心をもち、さらに深く調べてまとめようとしている。	○		○	
古代まで の日本 ⑥	(1)①	複数の資料をみて、その内容から資料に共通するテーマを考察できる。		○		
	(1)②	奈良時代の社会の様子を理解している。				○
	(2)	資料(十七条の憲法)で示されたことでは分からないことを判断できる。		○		
中世の 日本 ⑦	(1)	源頼朝が政治を行った時期とその政治の特色を理解している。				○
	(2)	武家政権の成立とその後の武家社会の発展の過程を理解している。				○
	(3)	中世の文化に関する資料について、さらに調べたいことを表現できる。	○		○	
	(4)	新しい道具に関する資料を基に農業の変化を説明できる。(近世の日本)			○	
	(5)アイ	15世紀頃の琉球に関する資料から東南アジアや東アジアとの結びつきを理解している。			○	○
	(5)ウ	15世紀頃の琉球に関する資料から琉球の国際的な役割を読み取ることができる。			○	
歴史の テーマ ⑧	(1)	豊臣秀吉の政治について、その意義を理解している。				○
	(2)	江戸時代の特色について、3つの資料を適切に選択して、多面的・多角的に考察している。		○	○	
	(3)①	江戸幕府の対外政策の特色について、考察した結果を説明することができる。			○	
	(3)②	江戸幕府のキリスト教に対する対応について正しく判断することができる。		○		

2 調査結果の分析と指導のポイント

(1) 調査結果の分析

全体	◆内容のまとめりごとの正答率では、地理的分野の「世界の地域構成」「日本の地域構成」「都道府県の調査」が50%を下回った。分野別での正答率では、地理的分野に比べて歴史的分野の正答率が約6ポイント高かった。 ◆評価の観点別に集計した正答率では、「資料活用の技能・表現」が、他に比べて低かった。 ◆6問あった記述で答える問題の無答率が全体的に高かった。
分野 (領域) 別	〈地理的分野〉 ◆地理的分野全体の正答率は50%に達していなかった。 ◆「世界の諸地域」の正答率が39%で全体の中で最も低かったが、その中でも時差に関する設問と大陸の位置を地図に書き込む設問の正答率が他に比べて低かった。 ◆「都道府県の調査」のうち、複数の資料を読み取り記述で解答する設問の正答率が他に比べて低かった。 ◇「身近な地域の調査」は全体の正答率が60%を超えており、おおむね満足できる状況である。 〈歴史的分野〉 ◇歴史的分野全体の正答率は50%を上回り、おおむね満足できる状況である。 ◆「歴史の流れ」では、時代や世紀を問う設問の正答率はいずれも50%以下であった。 ◆「古代までの日本」「歴史のテーマ」では、いくつかの資料を組み合わせで解答を導き出す設問の正答率が他に比べて低かった。 ◆「中世の日本」では、年表中で、ある時代を特定する設問の正答率が他に比べて低かった。
見られる 継続して 課題	〈地理的分野〉 ◆地図を活用すること。 ◆統計資料等を読み取ったり、活用したりすること。 〈歴史的分野〉 ◆年表を活用すること。 ◆年代や世紀の表し方に関して理解すること。 〈地理的分野・歴史的分野共通〉 ◆複数資料を活用すること。 ◆記述で答える設問において、無答率が高いこと。

(2) 指導のポイント

〈地理的分野〉 ○地図帳を中心に地図の読み取りと活用の場面を積極的に設定する。(報告書 p. 7, 9 参照) ・「世界と日本の地域構成」では、世界や日本のニュースやオリンピックなどのイベント、旅行ガイドや都道府県クイズ、環境問題等の生徒が興味・関心をもって取り組める題材や出来事を教材として学習を進める。その際に、地図帳を中心に地球儀等も積極的に活用して、位置や地名を確認する学習活動に取り組む。 ・「身近な地域の調査」では、フィールドワークの際に必要な大縮尺(5000の1や2500分の1)の地形図を利用して、生徒が身近に感じる地域で、地図を読み取り活用する学習を取り入れる。 ○「都道府県の調査」などで、統計資料等の見方や活用の仕方(資料活用のスキル)を定着させるための学習場面を設定する。(報告書 p. 11 参照) ・特に、単元の導入の段階で、具体的資料とその活用方法をまとめた「資料活用シート」を常に授業時に利用するなどして資料活用のスキルを高める。 〈歴史的分野〉 ○年表活用の場面を積極的に設定する。(報告書 p. 11, 13, 14 参照) ・単元のまとめにおいて、学習した内容を振り返りその時代の特色を年表などでまとめる学習を年間計画に位置付ける。 ○歴史学習に必要な基礎的な技能(スキル)を身に付けさせる学習を継続して行う。 (報告書 p. 11, 13, 14 参照) ・「歴史の流れ」の学習で、年代の表し方、時代区分の方法、年表の読み方、書き方などの歴史学習の基礎となる技能(スキル)の学習に取り組み、その後の単元で定着させるための指導を継続して行う。 ・「古代までの日本」からの学習では、その時代が我が国の大きな歴史の流れの中でどこに当たるかを単元ごとに確認させる。 〈地理的分野・歴史的分野共通〉 ○複数の資料を組み合わせで解答を導き出す問題により多く取り組ませる。 ○自分の言葉で書く学習場面を積極的に設定する。(報告書 p. 11, 14 参照) ・地理的分野、歴史的分野それぞれで資料を読み取るだけでなく、それをもとに、自分の意見や考えをレポートや新聞にまとめる活動に取り組ませ、自分の言葉で表現させる学習を充実させる。

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

領域別正答率 「地理的分野」 H20:49%、H19:57% 「歴史的分野」 H20:55%、H19:55%

大問・領域	小問	問 題	正答	主な誤答例	正答率 自校の	正答率 市の	無答率 市の
① 世界の地域構成	(1)	赤道・本初子午線・日付変更線の地理的特徴を述べた1～4から正しいものを選ぶ。 1 Aは赤道で太平洋・インド洋・大西洋を通る。 2 Aは赤道で0度の緯線であり、北米大陸を通る。 3 Cは本初子午線で、インド洋を通過し、東側を東経、西側を西経と呼ぶ。 4 Cは日付変更線で、経度180度付近を通る。	1	3		52	2
	(2)	地図1～地図3の特徴を踏まえて、国の位置等について述べた1～4から正しいものを選ぶ。 1 日本から見て真東にある国はAのアメリカ。 2 カのオーストラリアは地図のウよりも狭い。 3 エのロシアは国土のほとんどが日本よりも高緯度にある。 4 オのインドネシアは大西洋に面している。	3	1		47	2
	(3)	ボリビアとの時差の求め方を述べた文の空らんにあてはまる数字の正しい組み合わせを選ぶ。	3	1		38	9
	(4)	略地図にアフリカ大陸のおおよその形を、正しい位置に描く。	《略》	無回答		20	30
② 日本の地域構成	(1)	地図1を見て、日本の領域について述べた1～4の文から誤っているものを選ぶ。 1 日本の領土の北端は北緯45度よりも北 2 日本の領土の東端は東経150度よりも東 3 日本の領土の南端は南緯15度よりも北 4 日本の領土の西端は東経120度よりも西	4	2		50	4
	(2)	地図の  の200海里の水域名を答える。	(排他的) 経済 水域	領海 排他的水城 北方領土 日本海 他		35	32
	(3)	地図2(外国人人口)と地図3(半導体工場分布)から読み取れる1～4の文から正しいものを選ぶ。 1 外国人人口100千人以上の都道府県で半導体工場があるのは東京都、神奈川県、愛知県、京都府、兵庫県の5都県である。 2 外国人人口が5千人未満の都道府県で半導体工場がないのは秋田県と佐賀県である。 3 島根県は、外国人人口が5～30千人未満の県で、半導体工場のある県である。 4 九州地方で外国人人口が5千人未満の県で半導体工場がある県は宮崎県である。	4	1		51	6
	(4)	地図3の※の県について述べた文を参考に県名を答える。「この県は日本で人口が3番目に少ない県である。江戸時代以前には土佐国と呼ばれていた。太平洋に面し、温暖な気候を利用した野菜づくりがさかんである。県と県庁所在地の名称が同じ県でもある。」	高知 (県)	高地県(漢字 間違い) 徳島県 愛媛県 無回答 他		44	13
	(1)	身近な地域の調査の際に用いる、最もふさわしい地形図の縮尺を次の1～4から答える。 1 50万分の1 2 20万分の1 3 5万分の1 4 2500分の1	4	3		45	4

世界の地域構成

(1) 結果の概要

- ① (1) 正答率は 52%。主な経緯線（赤道・本初子午線・日付変更線）を様々な地理的要素と関連させて理解していないことが分かる。特に「3」の選択が多く、本初子午線の通過する海洋をインド洋ととらえている誤答が多かった。地図や地球儀を活用して、これらの経緯線の地図上での位置をとらえる学習を充実させる必要がある。
- (2) 地図の特色を踏まえて正しい活用を選ぶ設問である。正答率は 47%。「1」（日本の東はアメリカ）を選択している誤答が目立った。原因として、主な地図の特色を正しく理解していないことが考えられる。地図の特色について再度整理して学習させる必要がある。
- (3) 日本とボリビアの時差及び日付を求める設問である。正答率は 30%。日本とボリビアの経度差を $(135-60)$ と考えてしまったためか「1」を選択している誤答が多く見られた。本初子午線を越えるときの経度差の求め方を定着させる必要がある。
- (4) 正答率は 20%であり、無答率が 30%と高かった。アフリカ大陸の位置と形を正しくとらえていないため、あいまいな形を描いたり、間違った位置に書き込んだ誤答が多かった。また、イメージできない生徒は解答の記入まで至らなかったようである。

(2) 指導のポイント

○ 地図（帳）や地球儀の活用及び、世界の国々を題材にした学習場面の設定

- ① 地図を活用した学習を充実させ、指導方法を工夫する。
- ・地理学習において、地図は基本であり最も重要な資料である。学習時には、地図帳を必ず用意し、必要に応じて地図帳を活用させたり、授業で地図を活用したりするなどの活動を取り入れて地図活用の習慣を身に付けさせる。
 - ・地図を簡略化し、略地図として描くトレーニングを繰り返し行うことで世界や日本の陸地分布をイメージとしてとらえさせる指導を行う。その際、主な経緯線についても位置を正しくとらえさせるように留意する。
 - ・経線や緯線に着目した位置の表し方や地図の特色と適切な活用について、理解を深める指導を工夫する。
- ② 世界の国々を題材にした学習を多く取り入れる。
- ・世界的なイベントやニュースなどを通して、世界の国々に興味をもたせる工夫をする。また、その国を大陸や州などの地域に分類するなどして、位置的な理解も促す。
 - ・日本からの距離や、時差などを求める活動を通して世界の国に対する理解を深める。

日本の地域構成

(1) 結果の概要

- ② (1) 日本の領域を問う設問で、東西南北の端を経度・緯度で表された位置を読み取るものである。正答率は 50%。地図 1 を活用すれば判断できるが、北緯や東経といった語句を正しく理解することで正答率も上がると思われる。
- (2) 正答率は 35%。また、無答率が 32%と高く、(排他的) 経済水域の概念が定着していないことがうかがえる。日本の国土を理解する上で、その範囲を示す日本の領域及び経済水域は、定着させたい内容である。隣国との領土問題とも関連付けて、ていねいに指導する必要がある。
- (3) 2 種類の地図資料を重ねて読み取る設問である。都道府県の名称と位置が関連付けられて理解されているかどうか、この資料を読み取るポイントとなる。「1」を選んだ生徒が多く、100 千人の外国人を有することと、半導体工場立地の条件を満たす都道府県を読み取れないことや、京都府と大阪府を取り違えていることが考えられる。
- (4) 地図中の※の県の名称を問う設問である。正答率は 44%。(3) 同様に都道府県の名称と位置の理解が必要である。文中の「土佐国」等、高知県を想起させるキーワードはあまり活用されなかったようである。誤答例として、徳島県や愛媛県など、四国地方の県を記入する例が多く見られた。都道府県の名称と位置については、繰り返し学習をして定着させる必要がある。

(2) 指導のポイント

○ 都道府県の名称と位置を関連付けて理解させる学習場面の設定

- ① 各都道府県の名称と位置を様々な視点や特色と関連付けて定着させる学習を充実させる。
- ・47 都道府県を、ニュースや旅行ガイドなど、都道府県名やその都道府県の特色を表す題材を活用し、クイズ形式など生徒が興味をもって取り組む工夫をしながら、都道府県名やその位置の定着を図る。

③ 身近な地域	(2)	テーマを調査する場合の調べ方として、不適切なものを次の1～4から答える。 1 梨の産地として発展するための工夫や努力について、農業協同組合に行きって聞く。 2 梨の栽培に適した気候や土壌について、役所の農業関係の課を訪ねて聞く。 3 梨や梨園の描き方について、美術館に行きって学芸員の人に聞く。 4 この地域で梨の栽培が広がった理由について、郷土史家(地域の歴史に詳しい人)を訪ねて聞く。	3	1・4・2		82	4
	(3) ①	聞き取り調査を行う活動を適切な順番に並べた場合の最初から4番目に当たるものをア～オから答える。 ア 農家へ行きって聞き取り調査をする。 イ 調査結果をまとめる。 ウ 訪問する農家を選び、調査を依頼する。 エ 調査の内容を検討し、調査票を作成する。 オ まとめの報告書を付けてお礼の手紙を出す。	イ	エ・オ		73	4
	(3) ②	梨の花が咲いてから収穫するまでの3、4か月の農家の栽培の工夫について聞き取り調査を行う際の具体的な質問内容を答える。	《略》	無回答		53	17
④ 都道府県の調査	(1)	資料1(富山県と他県の河川の勾配の模式図)から富山県の河川の特徴を答える。 富山県の河川は、全国の代表的な河川に比べて()。	例) 勾配が強く、流れが速い。	標高が高い、長さが短い、標高が他県から見ても中程度、無回答 他		15	25
	(2)	資料2(富山県内四市と富山県全体に関する資料)から読み取った1～4の文から正しいものを選ぶ。 1 四つの市で最も人口の多いa市は漁獲量も1番多い。 2 四つの市とも農業生産額に占める米の割合が高く、70%を越えている。 3 四つの市の中で工業製品出荷額が最も高いa市は、農業生産額は最下位である。 4 四つの市の中で面積が1番小さいc市は、工業製品出荷額も最下位である。	2	3		75	8
	(3)	資料2の面積と人口に関する情報を読み取った1～4の文から不適切なものを選ぶ。 1 四つの市の人口の合計は、富山県全体の人口の2分の1以上を占めている。 2 四つの市の面積の合計は、富山県全体の面積の2分の1以下である。 3 四つの市のそれぞれの人口を比べると、最も人口が多い市と2番目に多い市では、2倍以上の差がある。 4 四つの市のそれぞれの面積を比べると、最も面積が大きい市と最も小さい市では、10倍以上の差がある。	2	1・4		38	8
	(4)	資料2をもとに、地図中Ⅰ～Ⅳの市と資料のa～d市の組み合わせとして正しいものを選ぶ。	3	1		58	10
⑤ 歴史の流れ	(1) ①	江戸時代を社会のしくみの特徴によって区分する時代名で表した場合、正しいものを1～4から答える。 1 古代 2 中世 3 近世 4 近代	3	2		47	3
	(1) ②	1638年が何世紀なのかを答える。	17世紀	16世紀		46	7

- ② 様々な視点からの地域区分を試みる学習に取り組ませる。
 - ・ 7 地方区分の行政上の区分をはじめ、いろいろな視点から日本の地域区分を試み、日本の地域構成をとらえる学習を実施する。
- 日本の国土（領域）に対する理解を深める学習場面の設定
 - ① 地図を用いて日本の領域をとらえる学習を充実させる。
 - ・ 地図を活用しながら、日本の範囲（領域）をとらえる学習や周辺国との位置関係を把握する学習を実施し、日本の領域に関する理解を深める。
 - ② 経済水域の概念を理解させる学習を工夫する。
 - ・ 経済水域の意味や必要性を資源などの面からとらえる学習を行う。また隣国との領土問題とも関連付ける。

身近な地域の調査

(1) 結果の概要

- ③ (1) 正答率は45%。身近な地域の現地調査（フィールドワーク）を行う際に最適な縮尺の地形図は、大縮尺の地図であるということに対する理解が不十分であると言える。
- (2) 正答率は、82%。テーマに沿った適切な調査方法を考察し、適切に選択することができる生徒が多いという結果だった。
- (3) ①正答率は、73%。身近な地域を調査する場合の手順を理解できている生徒が多いと思われる。
- (3) ②調べたことをさらに追究するような質問内容を設定する力を問う設問である。正答率は53%で、無答率は17%。意欲的に問題に取り組もうとする態度の有無が正答率にかかわっていることも考えられる。

(2) 指導のポイント

- 身近な地域の特色を体験的、作業的な学習を通して明らかにする活動場面の設定
 - ① 直接体験地域の特色を明らかにする学習に意欲的に取り組ませる。
 - ・ 地域に広がる景観などに着目し、地域的特色を明らかにしようとする意欲を高める指導をする。
 - ・ 地域的特色を明らかにするために有効な調べ方、まとめ方、発表の方法を適切に選択できるように指導する。
 - ② 地理的事象を追究するための地理的技能の指導を充実させる。
 - ・ 現地調査（フィールドワーク）の際に必要な大縮尺の地形図を読図し、活用する力を高める。その際、様々な縮尺の地形図の特徴と活用方法を身に付けさせる。
 - ・ 統計、文書資料、映像資料、現物資料などに親しませ、それらの活用の技能を高めるように指導する。

都道府県の調査

(1) 結果の概要

- ④ (1) 資料から、全国の河川と比較した富山県の河川の特色を述べさせる設問である。資料や問題文から、高さ（標高：勾配）と長さの両観点を踏まえた説明を求めていることを理解しなければならず、やや難しかったようである。そのため、正答率が15%で無答率も25%だった。誤答例としては、いずれかの観点からの説明という事例が多かった。
- (2) 四市の産業について資料を読み取る設問である。正答率は75%。農業生産に占める米の割合が、四市すべて70%を超えていることを、資料に基づいて判断できている生徒が多かった。資料から必要な情報を得て活用する力は今後も伸ばしていきたい。
- (3) 四市の面積や人口の情報を資料から読み取る設問である。(2)の設問と比較すると、本問は単なる資料の読み取りだけではなく、データを計算処理するという過程を要するため、正答率も38%であった。資料を読み取る技能として、本問のようなケースも日頃の授業で取り上げたい。誤答例として、「1」や「4」を選ぶ生徒が多かった。
- (4) 四市の位置を地図上に特定していく設問であるが、正しい判断をするためには、資料2のデータを総合的に読み取る力が必要である。特に面積に注目すると判断しやすいと思われる。正答率は58%。

	(2)	年表中A～Cに当てはまるカード(ア)～(ウ)の正しい組み合わせを下の1～6の中から答える。 1 A(ア) B(イ) C(ウ) 2 A(イ) B(ア) C(ウ) 3 A(イ) B(ウ) C(ア) 4 A(ウ) B(イ) C(ア) 5 A(ウ) B(ア) C(イ) 6 A(ア) B(ウ) C(イ)	3	4		68	4
	(3)	“海をわたった人たちに”にインタビューしたことにして、その内容を表現する場合に、“海をわたった人たち”を次の1～4から一つ選び、その人に対するインタビューとしてふさわしい内容を答える。 1 鑑真 2 最澄 3 小野妹子 4 フランシスコ・ザビエル	《略》	無回答		75	7
[6] 古代までの日本	(1) ①	琵琶、ペルシャ風の漆器、弥勒菩薩像という複数の資料を見て、その資料から共通するテーマを一つ選んで答える。 1 縄文文化と弥生文化の違い 2 国際的な文化の開花 3 文化の国風化 4 武家文化の成長と今日につながる文化	2	3		56	3
	(1) ②	琵琶とペルシャ風の漆器が使われた頃(奈良時代)の社会の様子について正しいものを一つ選んで答える。 1 天皇は、仏教の力にたよって国家を守ろうと、都に東大寺を建て、金銅の大仏をつくらせました。 2 摂関政治を行う藤原氏は、朝廷の高い地位をほとんど独占し、多くの荘園をもつようになりました。 3 邪馬台国の女王卑弥呼が、中国の皇帝から「親魏倭王」という称号と金印を授けられました。 4 将軍は、京都を中心とするわずかな地方を支配するだけとなり、天皇や貴族・寺社などの領地は各地の武士にうばわれました。	1	2・4		41	5
	(2)	十七条の憲法から読み取れる聖徳太子の政治の様子について、当てはまらないものを一つ選んで答える。 1 仏教を広め、政治に仏教の考え方を取り入れようとした。 2 天皇を中心とする政治制度を整えようとした。 3 政権のなかで続いた豪族同士の争いをなくそうとした。 4 東北地方の蝦夷に対してたびたび大軍を送り、朝廷の勢力を広げようとした。	4	2・3		61	4
[7] 中世の日本	(1)	<人物名>東国の多くの武士たちと主従関係を結び、武士として初めて幕府を開いたのは誰か。 <年表の時期> ア 1100年～承久の乱 イ 承久の乱～南北朝の戦い ウ 南北朝の戦い～応仁の乱 エ 応仁の乱～関ヶ原の戦い	源頼朝	平清盛 徳川家康		45	19
			ア	イ		37	9
	(2)	年表中の「応仁の乱」から「関ヶ原の戦い」までの時期について説明した文章を一つ選んで答える。 1 幕府の力が衰えて、戦国大名による戦いが続いたのち、やがて統一が進められた時期 2 初めて武家独自の法律を定めた幕府が、西日本各地にも力をおよぼすようになった時期 3 将軍が朝廷にも力をおよぼし、守護大名たちの勢力もおさえて、政治が安定した時期 4 武士が貴族の政治へのかかわりを深め、その中から初めて政権をにぎる者も現れた時期	1	3		51	9

(2) 指導のポイント

○ 資料を活用するスキルを身に付ける学習場面の設定

① 資料の読み取り方や考え方の指導を充実させる。

- ・資料を読み取り活用するためには、その方法(型)を身に付ける必要がある。資料の読み取りや活用の方法を定着させる指導を行う。資料の活用方法を示したものをシートなどにまとめ、授業時に常時活用できるようにするなどの工夫をするとより効果的である。

② 様々な資料の活用を図る学習を充実させる。

- ・様々な資料に日常的に触れることで資料活用に慣れさせるとともに、単純な読み取りから計算処理など手間をかけた読み取りなど、いろいろな活用を経験させる。

○ 表現する力を身に付ける学習場面の設定

- ・より多くの機会に様々な方法で表現する学習に取り組ませる。
- ・資料から読み取り考察したことを自分の言葉で表現するほか、グラフや地図など必要に応じて様々な方法を用いて表現する力を、日常の学習でトレーニングする。

歴史の流れ

(1) 結果の概要

- ⑤ (1) ①「古代」「中世」などの社会のしくみの特徴で時代を区分する呼び方と「平安」「鎌倉」など、政治の中心地の移り変わりによって時代を区分する呼び方の理解を問う設問である。正答率は47%。時代名の呼び方、表し方の定着に課題がある。
- (1) ②西暦年を100年単位で年代を区切る世紀の表し方についての理解を問う設問である。正答率は46%。世紀の数え方、表し方の定着に課題がある。誤答の中では、1638年を「16世紀」と答えるものが最も多かった。なお、「16世紀」以外の誤答も多く、世紀の表し方についての理解が不十分な生徒が多いと考えられる。
- (2) 平安時代、室町時代、明治時代の特色について、建物のつくりの視点から理解しているかを問う設問である。「平等院鳳凰堂」と「鹿苑寺金閣」の時代の区別ができなかった生徒が多かったと考えられる。
- (3) 歴史上の人物について、テーマに沿った調べ方ができるかどうかを問う設問である。普段から、意欲的に歴史的事象を追究しようとする姿勢があれば正解できると思われる。正答率は75%。これらの人物に対する興味・関心の高さが確認できた。

(2) 指導のポイント

○ 歴史学習の基礎となる技能(スキル)を高めるための学習場面の設定

① 「歴史の流れ」の単元において、技能の基本的な内容を指導する。

- ・小学校の人物中心の歴史学習から、中学校の通史中心の歴史学習へ移行させるために、歴史学習の導入として、日本の歴史について関心ある主題を設定し、まとめる作業的な学習を設定する。
- ・作業的な学習の際、歴史学習の基礎となる歴史的技能(スキル)※を、作業を通して体験的に習得させ、それらの技能を活用した作品、発表、まとめなどを取り入れる。
- ・歴史は流れ、時代と共に移り変わっていくという認識を、この単元の学習を通してしっかりと定着させ、その後の学習でさらに発展させていく。

② 「歴史の流れ」以外の単元において、技能の定着を図る指導を継続して行う。

- ・現在学習している時代は歴史全体の中でどこにあたるかを、教科書や資料集、板書、掛図等の年表を利用して、毎時間確認する。
- ・一つの時代の学習が終わるごとに、その時代を振り返らせ、各時代の変化や歴史の流れについて気付かせる。その際、習得した歴史事項を活用させるようにする。
- ・年代の表し方や時代の呼び方などは、適宜、授業の中で復習が図れるようにする。

※歴史学習の導入で習得させたい基礎的な技能(スキル)とは・・・

<年代の表し方>

- ・西暦(紀元前、紀元後) ・世紀(紀元前、紀元後) ・日本の年号

<時代区分の方法>

- ・社会のしくみの特徴による時代区分の呼び方
「古代」「中世」「近世」「近代」など
- ・政治の中心地等に注目した時代の呼び方とそれに関連する呼び方
「平安時代」「鎌倉時代」「江戸時代」・・・政治の中心
「細文時代」「弥生時代」「古墳時代」・・・特色ある文化

<年表の読み方、書き方>



[8] 歴史のテーマ	(3)	金剛力士像と慈照寺（銀閣）東求堂の写真を見て、いずれかの資料についてさらに調べたいことを記述する。	《略》	無回答		72	13
	(4)	江戸時代初期に発明・改良された千歯こきと備中ぐわの絵画資料を見て、これらが発明されたことによってその後の農業においてどのような変化があったのかを簡潔に説明する。	《略》	農業をやる人が増えた		59	21
	(5) アイ	「14 世紀～16 世紀のころのおもな航路」と「15 世紀のころに琉球の釣り鐘に刻まれたことばの一部」の二つの資料を見て、15 世紀のころの沖縄（琉球王国）がどのような地域と交流をおこなっていたのかを答える。	1 4	2・3・5・ 6		64 44	9 9
	(5) ウ	15 世紀頃の沖縄（琉球王国）がどのように栄えたのか国際的な役割から答える。	中 継 貿 易 (貿易)	無回答 (数字で答える)		54	21
	(1)	「太閤検地を始める」「刀狩を行う」の政策の結果、社会がどのように変化したかを 1～4 の中から答える。 1 天皇と貴族が中心となって、政治を運営するようになった。 2 小さな国々ができ、人々を支配する有力者や王が出現した。 3 武士と農民との身分の区別が明らかになり、社会が安定した。 4 実力のある者が、力をのばして上の者にうちかつ風潮が広がった。	3	1・2・4		68	8
	(2)	資料 1～資料 3 を使って「江戸幕府の大名統制」というテーマで発表した内容としてあてはまらないものを答える。 資料 1・資料 2・資料 3 1 幕府は、大名が一年おきに領地と江戸を往復するように定め、その費用や江戸での生活のための多くの出費が必要でした。 2 幕府は、大名を取りつぶしたり領地がえをしたりする実力をもっており、特に関ヶ原の戦い以後に徳川家に従った大名をきびしく統制しました。 3 幕府は、大名を統制する法律を定め、大名家どうしが無断で結婚関係を結んだりすることを禁止しました。 4 幕府では、将軍のもとで老中が政治の運営にあたり、寺社奉行・町奉行・勘定奉行の三奉行などが政務を分担しましたが、これらの役職には譜代大名や旗本が任命されました。	4	2		41	8
	(3) ①	年表中の [C] に書かれた内容について、次の説明を読んで、あてはまる文章を答える。 年表 3 班の説明	《略》	貿易を制限した/ キリスト教を廃止した/外国船打 払令/ザビエルを 日本から追い出 した/ポルトガル 船来航禁止		35	35
	(3) ②	資料「幕府の行ったこと」から、この政策に共通する方針（考え方）として、適切なものを 1～4 の中から答える。 資料「幕府が行ったこと」 1 キリスト教を徹底的に禁止する。 2 キリスト教の腐敗をただす。 3 南蛮貿易の発展に努める。 4 キリスト教の布教を黙認する。	1	2・4		75	9

(単位：%)

古代までの日本

(1) 結果の概要

- ⑥ (1) ①琵琶、ペルシャ風の漆器、新羅と広隆寺の弥勒菩薩像の四つの資料を見て共通するテーマを選択する設問である。正答率は 56%。「文化の国風化」を選択している誤答が多く、文化財からその文化の特色を判断することが苦手な生徒が多いと考えられる。
- ②琵琶、ペルシャ風の漆器を見て、これらが使われた頃の社会の様子を選択する設問である。正答率は 41%。平安時代や戦国時代の様子を選択している生徒が多く、文化に関する資料とその時代背景を関連付けて理解することに課題がある。
- (2) 十七条の憲法から読み取れる聖徳太子の政治の様子としてあてはまらないものを選択する設問である。正答率は 61%。聖徳太子の政治の特色についてはおおむね理解できていると判断できる。

(2) 指導のポイント

○ 文化に関する資料とその時代背景を関連付ける学習場面の充実

- ・文化の指導にあたっては、語句や人物名だけでなく、写真や掛図等を積極的に活用し、視覚的な教材を取り入れて指導する。
- ・文化に関する資料と、その文化の時代背景が関連付けられるよう、文化の担い手や時代背景が顕著に表れている代表的な事例を取り上げるとともに、年表を活用した指導の充実を心掛ける。
- ・身近な生活とかかわりのある文化財を取り上げ、文化に対する興味・関心を高めるようにする。

中世の日本

(1) 結果の概要

- ⑦ (1) 源頼朝に関する説明を読んで、人物名を答えるとともに、活躍した時期を年表中から選択して答える設問である。源頼朝の実績は理解している。しかし、源頼朝の活躍した時期の正答率が 37%で、人物名は分かっているとしてもそれを歴史の流れの中でとらえることができていない生徒が多いと考えられる。
- (2) 戦国時代の社会の様子について選択して答える設問である。正答率は 51%。各時代の特色を正しく理解していないため、室町時代初期と混同している誤答が多かった。
- (3) 金剛力士像と慈照寺（銀閣）東求堂の資料を見て、さらに調べたいことを表現する記述式の設問である。正答率は 72%。自ら課題を設定し調べるという学習活動が日常的に取り入れられた成果が表れたと考えられる。
- (4) 千歯こきと備中ぐわの資料から、これらが使われたことによってその後の農業においてどのような変化があったのかを説明する記述式の設問である。正答率は 59%。
- (5) ア・イ
「14 世紀～16 世紀のころの主な航路」と「15 世紀のころに琉球の釣り鐘に刻まれたことばの一部」の二つの資料を見て、15 世紀のころの沖縄（琉球王国）がどのような地域と交流を行っていたのか選択して答える設問である。東アジア、東南アジアといった地理的分野の既習事項も必要とされる。複数の資料を活用して答えることに課題がある。
- (6) ウ
15 世紀の沖縄（琉球王国）の国際的な役割を資料から読み取り、中継貿易によって栄えていたことを答える設問である。正答率は 54%で、無答率は 21%。

(2) 指導のポイント

○ 年表の積極的活用を中心とした資料を読み取る場面の設定

① 常に年表を活用した学習を心掛ける。

- ・歴史上の人物を学習する際、年表を活用して、活躍した時期と実績を関連付けて理解させる指導を充実させる。
- ・常に年表を活用した指導を心掛け、歴史の大きな流れの中で各時代の特色や変化をとらえられるようにする。

② あらゆる場面で様々な資料を取り入れた学習を心掛ける。

- ・さまざまな資料を積極的に取り入れた学習を心掛け、資料を読み取り、文章で表現する活動を取り入れた指導を充実させる。
- ・諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力を育てるため、資料の見方、とらえ方、資料を扱う際の留意点等についての指導を充実させる。

歴史のテーマ

(1) 結果の概要

- ⑧ (1) 豊臣秀吉の政治について、その意義を理解しているかどうかを問う設問である。様々な時代の意義や特色を理解し、区別できる力を身に付けているかどうか課題である。
- (2) 江戸時代の特色について、三つの資料を適切に選択して、多面的・多角的に考察しているかどうかを問う設問である。正答率は、41%。資料を読み取る力だけでなく、必要な情報を取捨選択し、文章に当てはめて考察することができる力が求められる。
- (3) ①江戸幕府の対外政策の特色について、考察した結果を年表の空欄に当てはまるように説明できるかどうかを問う設問である。正答率は35%で、無答率も35%。資料から読み取れることから特定の歴史事象を連想し、その語句を活用して自分の言葉で表現する力が不十分であると言える。
- (3) ②江戸幕府のキリスト教に対する政策について、その特色を理解しているかどうかを問う設問である。正答率は75%。

(2) 指導のポイント

○ 時代の移り変わりをとらえ、テーマにそった課題に取り組む学習場面の設定

- ・設定されたテーマにそった課題を追究できるような資料を活用し、生徒の関心を高めるとともに、学習する時代に対する認識を深めさせる。

① 時代の移り変わりをとらえるための指導を充実させる。

- ・政治・社会・文化など時代の特色をとらえるために、文章や年表などにまとめて表現させる指導を取り入れる。
- ・時代の移り変わりに関係する基礎的・基本的事項を着実に習得させる。そのために、小テストなどを実施し、繰り返し学習させることで定着を図る。

② 設定されたテーマにそった課題に取り組むための指導を工夫する。

- ・単元全体を貫き、単元の学習の柱となるようなテーマを設定し、課題の解決が単元全体の理解につながるようにする。